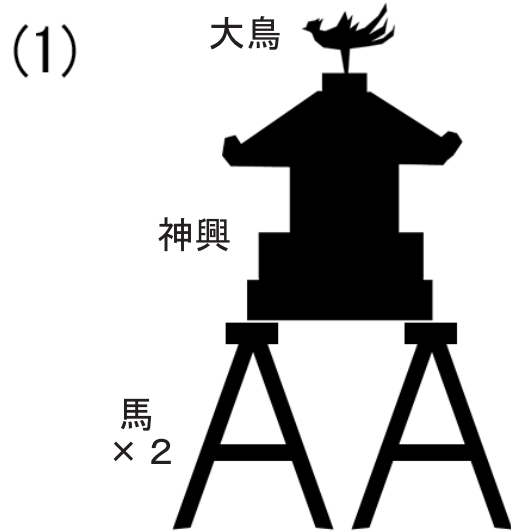


担ぎ棒の装着と神輿との固定方法について

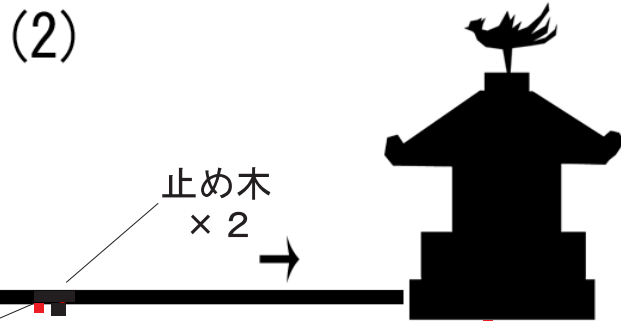


■神輿の馬への正しい設置

先ず、(1) 図の様に馬2台の上に神輿を載せて下さい
天の大鳥の頭の向きと馬の向きに注意し、神輿が
ずり落ちないように2名以上で作業を行なって下さい

■担ぎ棒（親棒）の正しい装着

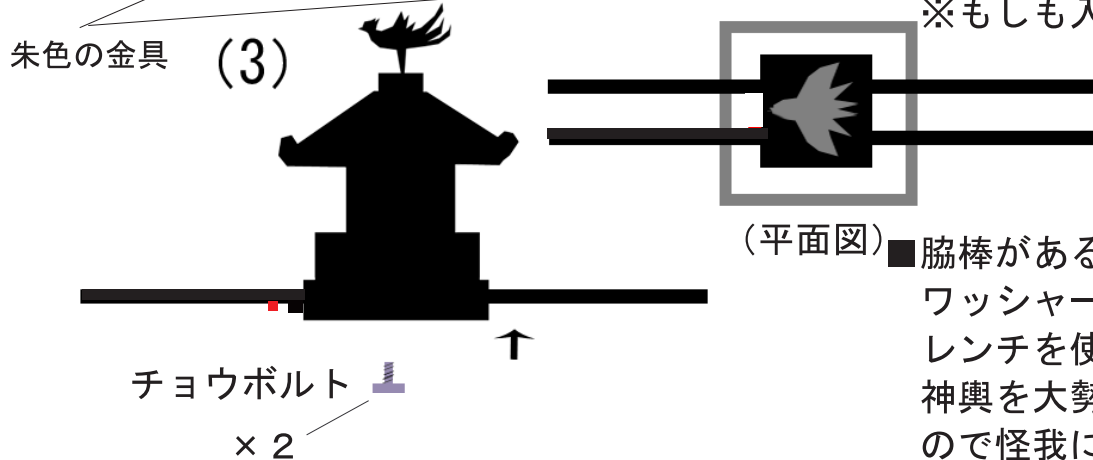
担ぎ棒2本に止め木とネジ穴がそれぞれついています
また、神輿と棒裏面に片方だけ朱色の金具をつけていますのでそれに
合わせて止め木を下に向けて正面方向から挿入してください
(3) の平面図をイメージした上で、
ネジ穴と止め木とが下にくるように
担ぎ棒を大鳥前面の穴から挿入して下さい



■担ぎ棒神輿との固定

四角い止め木 が神輿穴の回りに接触した状態で 神輿下面より
左右担ぎ棒下の棒スラシ板中央の穴よりチョウボルトで固定して
ください。 右回し（時計回り）で入っていきます
棒の間隔が狭く手を入れにくい場合は馬の位置を棒で神輿をもちあげて
棒を馬にのせるように馬の間隔をひろげれば取付するスペースを確保で
きます

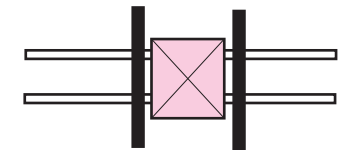
※もしも入りにくい時は棒の位置若干をずらしたり円滑油を塗って下さい



※参考

親棒：□

脇棒：■



(平面図)

■脇棒がある場合は、六角ボルトを下から持ち上げる形でしたから通して
ワッシャーを通してナットを付属のレンチで締めてください

レンチを使用するため、棒の上下に直径2センチの穴が空けてあります
神輿を大勢で担がれる際には、ボルトが上に若干飛出した状態になります
ので怪我には十分注意するよう警告して下さい